

From Kobe 2014 年 3 月 弥生 3 月 Spring has come 神戸から春の便り

【1】 Spring has come 神戸の春便り

【2】「ソチ五輪の放送に感動しましたか?」 何かおかしい「特別」の氾濫

2014.3.1. by Mutsu nakanishi

1. Spring has come 神戸の春便り



梅も咲き出した神戸須磨海岸 春の明るい陽ざしにきらきら輝く須磨の海

弥生 3 月 春迎いのすばらしい風景に乗せて 明日への希望・期待が膨らんでいく。

でも いつも どんでん返しの不安が付きまとい、積み残されまいとの思いの中で、心が揺れ動く

今 時代の方向が変わろうとしている時代に黙ってはおれない。 そんな思いをぶつぶつと

頂点迎合・過度の多数派横暴が益々露骨な最近の世相

年寄りの冷や水・たわごとと自分だけとと思っていましたが、街でもそんな声

海外からも逆の声 強気の声のほころびも

ソチ五輪 毎日夜中まで繰り返し流される映像と感激の押し売り。そして、スタート前に長々とあおりの話が繰り返し流れる。記録と中継 解説と報道がごちゃ混ぜで スポーツ放送の面白さがどんどんそがれてゆく。

外から見れば、本当にこっけいな姿勢に移っているのでは……何かおかしい最近の報道姿勢 益々それが急加速。

某新聞の紙面づくりも異常。

全面広告に 一面全面ひとつのテーマ記事が並ぶ。それも記者が書く記事でなしに外の人の署名記事。

全面記事をはずすと記事数もすごい削減。 本当に読みにくい。また読むとこがない。

新聞に期待する方向が随分乖離してきたようだ。 新聞・放送など報道各社の断末魔の叫びなのだろうか……

街のあちこちで、卒業式を迎える若者の華やいだ姿も多い。

どうか 期待が現実になまってゆく春迎えになってほしいものである。



春の訪れ 須磨・明石海峡のイカナゴ漁が 2 月 28 日解禁 巷のあちこちに釘煮のにおいが漂ってきます

◎ 春を一番先に感じる神戸の景色

きらきら春の陽光に輝く神戸 大阪湾の海



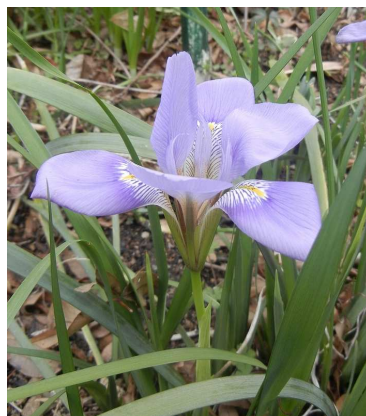
春一番 春の陽光に輝く須磨の海 こんな須磨海岸の景色が撮れました
2月半ば 所得税の確定申告をPCで作って 須磨海岸にある税務署へ持って行って
きらきら春の陽光に輝く須磨の海を眺めながら、海岸を歩いて帰る



きらきら輝く春の海 神戸港島より眺めた大阪湾西部 2014. 2. 23.
神戸港島の市民病院から撮った景色 後で聞くとこの日はPM2.5が飛来した日
このきれいな陽光の景色も それかも もし そうならがっかりです

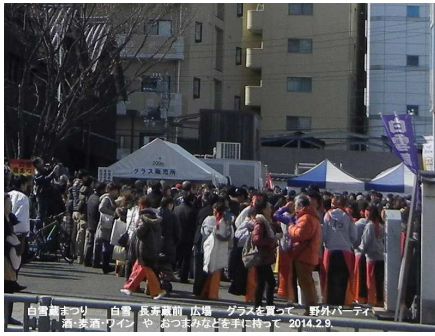
◎ 冬あやめ

寒い季節なのに 庭の片隅で こんなにきれいなあやめ「冬あやめ」が咲きました。



◎ 恒例の灘の酒蔵の蔵開き

伊丹「白雪」の長寿蔵の蔵開き 2014. 2. 9.



春恒例の伊丹「白雪」の長寿蔵の蔵開き 2014. 2. 9.

灘の酒蔵の蔵開きもまた、神戸・阪神間の春迎えの楽しいイベント

毎年 新酒の仕込みの終わった2月の半ばから3月はじめにかけて、各地の酒造酒蔵では その年の新酒の仕込が無事終わったことを祝い、また、蔵元の造るお酒のPR もかねて、春恒例のイベントとして、蔵開きが盛大に開かれる。

灘五郷・西宮・伊丹の酒造メーカーが集まる阪神間では、それぞれの蔵元が趣向をこらした蔵開きを開催。

珍しいお酒やワインの試飲ができ、お酒も安く買えるので、春の楽しみの一つ。

阪神・阪急電車の駅の案内掲示板にも沿線蔵元の蔵開きの案内が掲示され、蔵開きの各蔵元の蔵開きを巡って楽しむ人も多い。故郷が尼崎の私には、砂糖を来るんで焼いたり、粕汁に甘酒など伊丹「白雪」の酒の粕そして奈良漬などが、この季節になると食卓に出てきた 記憶があり、ここ数年伊丹に住む娘一家から誘いがあると毎年白雪の蔵開きを楽しんでいます。 今年も2月9日伊丹白雪の蔵開きを楽しんできました。

一番の土産は2000円で買い求める「白雪」福袋。今年は一升瓶の酒も入っていて、ラッキー。

伊丹は清酒発祥の地 出店で酒やビールの肴を買って、酒やビールなど色々試飲。

チョコレート味のビールにはびっくり。すっかり酔っ払って帰ってきました。



◎ 大阪落語紀行に 神戸ゆかりの桂福丸さん出演 NHK 番組より

1 回/3 ヶ月 神戸での落語会に仲間と一緒に応援している桂福丸さんがNHK テレビに出演

番組では大阪落語ゆかりの地や大阪落語に使われる小道具の紹介されました。

仲間と一杯やって ほろ酔いで聴く落語会が楽しみに。せっせと通ううちに

大阪落語だいぶ知るようになりました。次は3月25日 楽しみにしています。

2015.2.21. NHK大阪 5時10分より「ゆうどき」に
桂福丸さん落語出演

50時に10分ほど前、流れていたTVに突然 桂福丸さんの顔
上方落語復興を成し遂げた師匠たちの顔も見られるという これはみんなに知らせねば……と。

NHK大阪「ゆうどき」
上方落語紀行
笑いの舞台を訪ねる



大阪落語の舞台となったゆかりの地を訪ねて、大阪落語を紹介する番組で、天満天神繁盛亭に出演中の福丸さんの役回りは、大阪落語ではなくてはならぬ高座小道具の紹介でした。

久しぶりに故人も含め、かつての大阪落語の四天王?(松鶴が抜けている 枝雀は四天王の後か?) にも出会えました



2. 「ソチ五輪の放送に感動しましたか?」 何かおかしい「特別」の氾濫

ソチ五輪の開催中 どうも駅前の広場やスーパー周辺の人ごみが増えた。

「朝から晩まで おんなじ様なことばかりテレビに流れていて、まったくつまらん。

家に帰ってもしあない」との声が あちこちで聞かれた。

まったくその通り。 人ごみが増えたのは これか・・・と。

◎ よくもまあ まだ競技も始まっていないのに これでもかこれでもかと競技者の記録・プロフィールを流し続け、朝から晩まで感激をあおる。おかげで、流れている放送が今のライブ中継か過去の記録かもわからず、もうごちゃ混ぜ状態で、今ソチでやっている競技の進行すらわからない。 他人のやっているお祭りのドンチャン騒ぎほど面白くないものはない。

高校野球の試合の地元中継を他の地域の人に試合の始まる数日前から、が成り立っているようなものである。

放送する人も解説者もみな地元の素人解説者風。とにかく わあわあともりあげればいいと心得ている。

そんなもの ほかから見れば、誰が喜ぶのか……。

また、NHK 会長のこっけいな対応 この人本当に大企業で社長・会長をやってきた人なのかと思いたくなる。

公私混同がまったくわかっていない。 いわゆるエイシュの「特別な」人として 育ててきたのだろう。

「特別」が一人歩きしているのだ。 五輪のNHKの放送もやつぱりなあ・・・と。

◎ 猛進するアベノミックスもほころびが見え始め、最近の安倍さんの憲法論議も大阪の某さんの話もおかしい。反対する人が少数だからといって、「多数決・二者択一」を錦の御旗に、民主主義の前提である「多数決・二者択一」を牽制する小異の余地を残すシステムを無視するなどもってのほか。

言葉を変えれば、小異の切捨ては、多数決・二者択一で選別された特別な人といえども暴走の何者でもなし。

でもこの小異に目を向けることを無視し、切り捨てることがなんと多いことか……………。

2014 年 2 月 28 日 朝日新聞の天声人語欄 ▼《歴史認などをめぐる中韓との溝が深まる》の項の中に、ギリシャ哲学者の加藤信朗さんが省察(せいさつ 自分を省みて そのよしあしを考える)した次の言葉が掲載されていました。

「明治以来、日本人は特別なのだ、という意識で隣国と付き合ってきたのではあるまいか。

結果として、互いに『同じ人間である』という親しさの内に生きる秩序を作り出せなかった」

私は、この「互いに『同じ人間である』という親しさの内に生きる」・「親しさの内に生きる」という言葉 そしてそれに対峙する「特別なのだ」の言葉に強く引かれました。

この 「特別」という言葉の中に潜む横暴を配さないと日本は国際社会で生きられないのではないかと感じる。

しばしば 《人間みな兄弟》との言葉はよく聞かすが、「互いに『同じ人間である』という親しさの内に生きる」それを行動規範と意識したことはない。「そんな甘っちょろい事で何ができるのか」と総攻撃を受けそうである。

また、日本人は「特別」という言葉に本当に弱い。

この「特別」の言葉を背負うと何でもかんでもでき、そして 周りもそれを許してしまうのである。

周囲を見回すとそんな「特別」だらけである。

年寄りになって、そんな風潮に我慢ならぬと感ずることが多くなった。

これは外から見ると異常なんだ。

「特別」には 警戒せねばならぬと はたと気がつきました。

庶民はみんな知っていて、寝たふりしているのかも…………

でも 時代の変革が、それを許さないこと 明日はわが身も想定しておかねば……

そんな不安感にもさいなまれる 70 歳である。

2014. 3. 1. Mutsu Nakanishi from Kobe

